

平成25年4月19日

財団法人富山第一銀行奨学財団  
理事長 金岡 純二 殿

助成研究成果概要報告書

教育機関名 : 富山大学	助成金額 : 900 千円
研究代表者 : 三船温尚	所属 : 芸術文化学部 芸術文化学科 職位 : 教授
研究題目 : 日本列島における古代青銅鏡鑄造技術の研究展開	

【研究概要】

朝鮮半島から青銅器文化が伝わり、中国から伝播した青銅鏡の影響を受け、列島の鏡生産が始まる。三角縁神獣鏡は列島内古墳から出土するが未だに中国では発見されていない。これが魏から卑弥呼が授かった鏡という中国製説と、列島で独自に製作したという2つの説が対立して久しい。1つの古墳から大量33面の一括埋納の例は少なく、鑄造技術者である申請者が33面全てを調査する例は初めてである。33面のうち同形鏡3面1組、2面5組があり、調査のほか、寸分違わない同じ鏡をどのような方法で鑄造したか実験検証した。調査と鑄造実験検証を重ねて、33面全ての研磨を含めた製作技術痕跡の全てを記録した。

本研究により、これまで論じられてきた製作技術に関する資料が提供でき、考古学研究者による三角縁神獣鏡の研究が大きく飛躍することとなる。また、銅器産業盛んな高岡にあって、世界的注目を受ける研究成果を提示することにより、平成25年4月に富山大学高岡キャンパス内に設立した「青銅器総合研究会」を中心に学術文化面、産業面において重要な研究拠点であることを示せる。

【成果要約】

33面の研磨状況を一覧表にまとめ、研磨程度を記号化し区分した。色調・肌合・肌荒れを分類し、造范痕跡を記録した。造范方法を推測するために、文様・圏線幅・回転痕跡・范傷・鑄バリ・湯口を詳細に調査記録した。仕上げ方法を推測するために、研磨方法・鈕頭を調査記録した。同形鏡が黒塚古墳出土鏡にある場合は、3者、あるいは2者を見比べて范傷の類似と相違を記録した。調査一覧表は、今後の他の三角縁神獣鏡の調査方法を決定づけるものであり、同じ項目を同じ評価で調査すれば、ある程度の一定化した継続研究が行える。このことが本研究の最も大きな成果となる。またこれまでの鑄造常識では理解できなかった幾つかの現象について、60面の模擬鏡鑄造実験を行い、出土鏡と類似した現象を再現することに成功した。ただ、出土鏡の鑄造技術は実験鏡よりもまだ高い位置にある。

(別添資料)

研究成果 発表状況	<p>本件は、奈良県立橿原考古学研究所と申請者の共同調査である。黒塚古墳出土三角縁神獸鏡 33 面は奈良県立橿原考古学研究所所蔵であり、このような共同研究の場合、成果発表方法は研究着手前に両者で協議しとり決める。本成果は、黒塚古墳発掘調査の総合報告書の中に盛り込まれる当初の計画であり、個々の論文発表はこの報告書発行後とすることが決まっている。本鏡は日本の古墳時代の社会構造、中国との関係を研究する上で 1 級の遺物資料であり、報告書発行の後に一括国宝に指定される極めて重要な遺物である。そのために、成果は、橿原考古学研究所の発表方針に沿うものである。</p> <p>調査の一方で、黒塚鏡に見られる諸現象について行った鑄造実験については、直接黒塚鏡を扱うものではないため、橿原考古学研究所所長 菅谷文則氏の許可を得て、以下の速報を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・三船温尚、菅谷文則、宮原晋一「速報—黒塚古墳出土三角縁神獸鏡にみられる模糊肌、ヌメリ肌、銀白色肌の鑄造実験—」、アジア鑄造技術史学会誌 FUSUS6 号（投稿済み。平成 25 年 9 月発行予定）</li></ul>		
経費の 執行状況	区分	執行額（円）	備考
	物品	149,590	調査用用具、鑄造実験用材料、撮影データ保存カード、文具など 52 件
	旅費	394,460	黒塚鏡調査旅費（高岡⇄橿原考古学研究所）8 回 9 件（三船、他 1 名）、研究補助者旅費 2 名 7 件
	謝金	355,950	鑄造実験補助、実験・調査データ記録整理補助 3 名 10 件